

**今日のトピック 世界の「投信マネー」(2019年6月)**
**2018年1月以来の1,000億ドルを超える流入超**
**投信マネーの流入超過額は1,022億ドル**

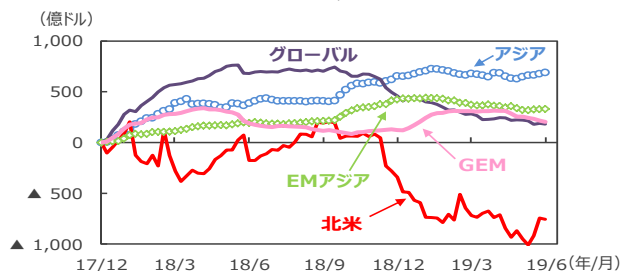
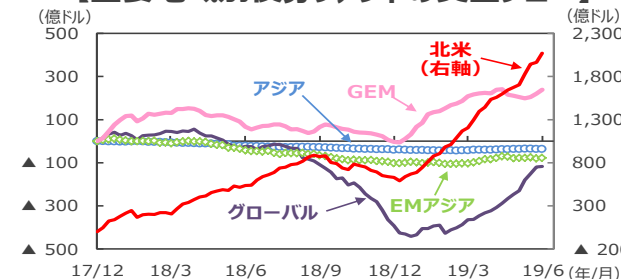
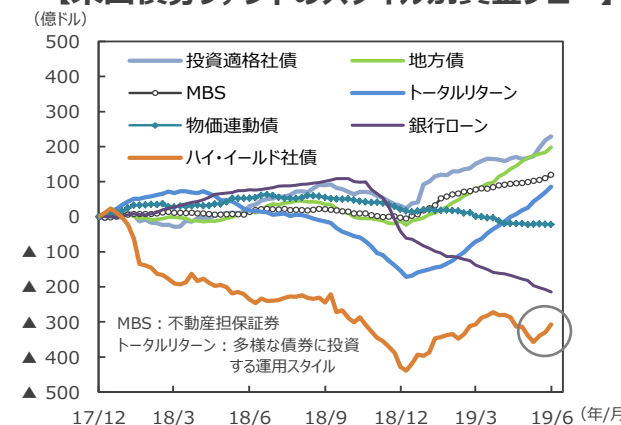
- 6月の投信マネーは全体で+1,022億ドル(前月+501億ドル)と2018年1月以来の1,000億ドルを超える流入超となりました。「MMF」は先月より減少したものの+371億ドル(前月+845億ドル)の流入超となり、「債券」は+577億ドル(同+257億ドル)と前月から流入超過額が拡大しました。また、「株式」も+64億ドル(同▲495億ドル)と、7カ月ぶりに流入超に転じました。他には「バランス」が▲47億ドル(同▲67億ドル)、「オルタナ」が+56億ドル(同▲40億ドル)でした。

**「先進国」株式ファンドは9カ月ぶりの流入超**

- 株式ファンドは、「先進国」が+113億ドル(同▲408億ドル)と9カ月ぶりの流入超でした。「北米」が+195億ドル(同▲239億ドル)、「日本」を含む「アジア」が+41億ドル(同▲37億ドル)と流入超に転じました。「新興国」は▲48億ドル(同▲87億ドル)と2カ月連続の流出超ですが、「EMアジア」が+10億ドル(同▲38億ドル)と5カ月ぶりの流入超に転じました。台湾が+23億ドル(同▲1億ドル)、中国が+16億ドル(同▲4億ドル)とけん引しました。

**債券ファンドは引き続き「北米」が中心。金融緩和への期待から再び「ハイ・イールド社債」も流入超へ**

- 債券ファンドは、「先進国」が+544億ドル(同+291億ドル)と6カ月連続の流入超です。「新興国」も「GEM」が+34億ドル(同▲34億ドル)の流入超でした。
- 引き続き「米国」への資金流入が続いています。「ハイ・イールド社債」が、金融緩和への期待から、+31億ドル(同▲59億ドル)と再び流入超に転じました。「投資適格社債」も+62億ドル(同+8億ドル)と流入超過額が拡大しました。また、「トータルリターン」が+60億ドル(同+39億ドル)、「地方債」が+31億ドル(同+44億ドル)、「MBS」が+21億ドル(同+8億ドル)とそれぞれ6カ月連続の流入超となりました。

**【主要地域別株式ファンドの資金フロー】**

**【主要地域別債券ファンドの資金フロー】**

**【米国債券ファンドのスタイル別資金フロー】**


(注1) EPFRグローバル：米国に本社を置く金融商品の調査会社。2019年5月末現在33.8兆ドル規模の世界のファンドの資金フローデータを持つ。データは2017年12月～2019年6月。週次ベース。2017年12月からの累計。

(注2) 「アジア」は日本、豪州、ニュージーランド、香港、シンガポール。「EMアジア(新興アジア)」は中国、インド、韓国、台湾、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム、パキスタン、バングラデシュ。「GEM」はGlobal Emerging Markets(世界の新興国市場全体に投資するファンドの総称)。

(出所) EPFRグローバルのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

**ここも  
チェック!**
**2019年7月 1日 G20後の米中日株式市場の見通し**  
**2019年6月25日 2019年7月の注目イベント**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。